

中国が「5G」商品投入 6Gにも着手

中国が官民を挙げて、高速大容量の第5世代（5G）移動通信システムの導入を加速させている。

5Gの大規模なネットワークを実現させる、と政府の閣僚が表明。政府系機関でも対応が広がっているほか、5Gの後継規格の計画もスタート。中国通信機器大手の華為技術（ファーウェイ）が欧米の5G整備で排除される中、中国は国家の威信をかけて国内での商用化を急いでいるようだ。

「まず幾つかの都市で5Gの臨時許可証を出し、大規模なネットワークを真っ先に実現する」

中国の苗圩（びょう・う）工業情報相は1月10日、「5G実用化を積極的に進める」考えを国営の中央テレビの取材で強調した。5G対応のスマートフォンやタ



2017年5月、日中韓3カ国の情報通信相合会に先立ち会談する野田聖子総務相(左)と中国の苗圩(ビョウ・ウ)工業情報化部長(右)



ブレット端末などの商品が、今年後半には続々と市場投入されると見込んでいる。

1月14日には北京市人民代表大会（市議会）で、陳吉寧（ちん・きつねい）市長が5G整備を加速する方針を表明。中央テレビは春節（旧正月）前日の大みそか（2月4日）に放送した恒例番組「春晚（しゅんぱん）」で華為（ファーウェイ）などと協力し、5Gを使って伝送した高精細画質の「4K」映像を披露する。



陳吉寧(ちん・きつねい)北京市長

■世界の通信業界事情に詳しい専門家は「中国は5Gの商用化スケジュールを早めてきている」とみる。

イギリスのオックスフォード大学は ファーウェイからの 資金提供受け入れず

中国の通信機器大手「ファーウェイ」からの寄付・資金提供を受け入れない方針を明らかにした。オックスフォード大学は最近指摘されている安全保障上の懸念に照らし「ファーウェイ」と同社関連会社からの研究開発への資金提供や寄付受付を停止する。

イギリス政府内では秘密情報部（MI 6）のヤンガー長官やウィリアムソン国防相がイギリスの第5世代（5G）移動通信



イギリス オックスフォード大学

システムに「ファーウェイ」が参入すれば、通信システムを通じて中国のスパイ活動が可能になる。イギリスでも「ファーウェイ」排斥が本格化しそうだ。



イギリス秘密情報部(MI 6)ヤンガー長官



イギリス ウィリアムソン国防相